

ヒグマの生態

●オス

体長：2.0m弱
体重：約150～400kg

●メス

体長：約1.5m
体重：約100～200kg

●聴覚

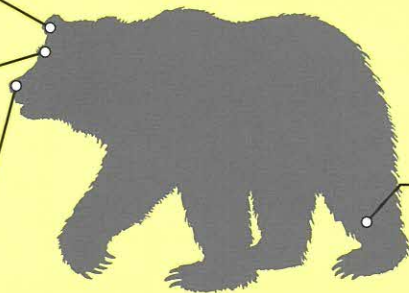
聴力に優れ、音に対しては敏感。

●視覚

昼夜を問わず行動できる視力を持ち、目は決して悪くはない。ただ、あまり遠距離の物はよく見えないらしい。

●嗅覚

敏感で、埋めた残飯などもすぐに見つけられます。



●性格

群れを作らず単独や親子で行動。大半のヒグマは警戒心が強く、人を避けて生活しています。

●運動能力

臨機の動作は非常に機敏。その気になれば一撃で牛を倒す事もできます。

人の活動での注意

●出没地域に住む人

ヒグマを引き寄せる生ごみなどを屋外に置かないようにしましょう。出没情報がある時には、夜間や薄暗い時間帯の外出を避けましょう。イヌの散歩は、吠え声でヒグマを興奮させる恐れがあり危険です。

●山菜採り

山菜はヒグマの生息地に生えていることが多いため、単独行動を避け、音を出しながら行動しましょう。

●キャンプ

ヒグマの痕跡のあるところでは、キャンプをしないようにしましょう。

●溪流釣り

水流の音でヒグマも人もお互いに気づきにくくなっていますので、より注意をはらいましょう。

●登山

山はヒグマの生息地です。どこでも遭遇すると考えましょう。特に、早朝や日没頃の行動はヒグマと出遭う確率が高くなります。

ヒグマの1年

事故多発

事故多発

冬眠・出産			冬眠明け		子グマの親離れ繁殖期		山野のエサが少なく農業被害を起こすことも		冬眠準備		冬眠
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

ヒグマとの事故をなくすために

登山・ハイキング・山菜採りなどでヒグマに出遭わないための行動

ヒグマの出没情報を事前に調べましょう!

市町村のホームページ、SNS、新聞、テレビ、ビジターセンターなどでヒグマの出没情報を確認しましょう。

音を出しながら歩きましょう!

単独で行動せず、複数人で会話しながら歩くと、ヒグマも人の存在に気がつきやすくなります。また、鈴を付けたり、見通しの悪い場所では、手を叩いたり、笛を吹くのもポイントです。

ヒグマの痕跡を見つけたら

ヒグマの足跡、フンや食痕に注意し、見つけたら、安全のために引き返しましょう。



足跡



フン(草本)



食痕(フキ)

ヒグマに出遭ってしまった場合

遠くにヒグマを見つけたら

落ちついて状況を判断してください。ヒグマがこちらに気づいていないなら、その場から静かに立ち去りましょう。

ヒグマがこちらに気づいたら

ヒグマの移動する方向を見定めながら、静かに立ち去りましょう。あわてることは事故につながります。まず落ちつくことです。普通にしていれば、ほとんどのヒグマは立ち去るはずですが。

走って逃げるのは自殺行為

ヒグマを刺激しないことです。まず落ちついてゆっくりと後ずさりしてヒグマから目を離さず、その場から離れましょう。

子グマの後ろに必ず母グマあり

可愛いからと近づかないで!

子グマを見つけたら絶対に近づかず、すみやかに立ち去ってください。母グマは子グマを守ろうと攻撃してきます。

それでも近づいてきたら

ヒグマから視線をはなさないでください。そしてヒグマの動きを見ながらゆっくりと後退してください。

襲い掛かってきたら

100%完全な対応ではないですが

北米では、首の後ろを手で覆い、地面に伏して、頸部、後頭部への致命傷を防ぐ方法を勧めています。道内の死亡事故でもこの部分が致命傷となっている事例がみられます。攻撃を止めるためには、クマ撃退スプレーが有効です。

ほんのうの話



人がヒグマを引きつける?

ヒグマは食べ物への執着が非常に強い動物です。生ゴミ(コンポスト含む)や果物、干し魚などの人の食べ物の味を覚えてしまうと、それを目当てに家の近くに繰り返し接近し、人を恐れずに行動するようになります。ヒグマの出没地域に住む人や野山に出かける人は、十分に注意し、危険を避けましょう。



コンポスト



さくらんぼ